

テント一週一文 (た)

——西山進「漫画しんぶん」100号

(承前)

透明の「入口」シートを手で開いて出て行く人を見送ってテントに独りになると入口を背にするわけにはいかない。とは言ってもテントは四方とも開けっぴろげなので、どこからでも入ってこられる。だから「入口」シートに背を向けていても誰に失礼に当たるわけではないが、わざわざ「入口」シートを作ってくれた方への義理もあろうかと、「入口」透明シートを正面に見る位置にイスを動かした。

100メートルほど先に渡辺通り交差点があるのだが、途中で地下道入り口はあり、並木は立ち並ぶで交差点は見えない。そして交差点の近くなので人の通りは多く、動きは早い。

「ナルホド。こんな風景なのか」と、ボンヤリ、空ろにただ前を見ていた。暑いとは言え座っていて汗が吹き出るほどではない。地下鉄入口からすらりとした女性がテントに向かって歩いて来る。靴は甲の空いたヒモ付きのライトブラウン。紺色のタイトスカート。歩く時にほんの少しだがかかとを蹴るように足早に歩く。ショルダーバッグはピンク。目を動かせば上着の色も見えるかもしれないが、ボンヤリと見ている範囲ではスカートと靴とバッグしか見えない。テントに近づいて来るスピードが思ったよりも速い。ア、人が来る、と思った。テントの手前10メートルくらいで彼女のつま先は左に曲がり、テントと九電本社との間の3メートルほどの歩道に消えた。

真っ白なスニーカーの父親と小ぶりに見える黒のヒモ靴をはいた母親の間で両手を父と母に任せてスキップしながら子どもがテントに向かっている。両親の間でスキップしているので父親と母親の陰に交互に隠れる。正面に顔が見える時には体を曲げて楽しそうに口を開けて笑っている。何か言っているように見えるが、聞こえない。体を曲げて跳ぶのでバランスは崩れる。両手は親の手と握っているのだから、それを頼りに飛び跳ねながら前に進んでいる。靴は鮮やかな色彩で頑丈。

彼らもまたテントの手前10メートルほどで左に向かい、視界から消える。ジーンズにスニーカーの若者、先のとがった黒い革靴、花柄の薄手のスカートとロングの女性二人連れが親子三人に続いてテントに向かっていたがテントの手前で左にそれて行く。ゆらゆらと進む小舟のへさきを波が右と左に分かれて行くように、人がテントの「入口」の透明シート手前でそれて行く。テントは人の世界をかき分け進む小舟に等しい。

俺はテントという小舟に独りで、話し相手もいなくてつい眠りこんで夢をみているのだろうか。それはそれでいいのだが、眠っては留守番にはならない。目を覚まさなければならん。何か資料が机の上に乗っていたように思うが、あれはどこから来た通信なのだろう。これだ、これだ。厚そうな会報だ。どこからだろう？ 西山進さん？ 西山さんは前に紹介したことがあったと思うけど…… そうだ「テント一週一文(に)」の「漫画しんぶん」だった。 <http://npg.boo.jp/kiyuku/series/170612kuriyama.pdf>

厚い会報だ、「漫画家会議報 DON」No.22。漫画家先生たちの会報か、道理で漫画がたくさん掲載されているんだ。西山さんが送ってきたのだから、西山さんのはどこに載っているのかな。ア、ここか。共謀罪について書いている。西山さんは長崎で

被爆して、それを今も語り部として子どもたちに伝えているんだけど……、そう言えば、西山さんの記事が毎日新聞の福岡版に載っていたナ、探してみよう。

マ、その被爆の前だけど、長崎の造船所で働いていて、寮で会社に批判的な替え歌を自分用のノートに書いていたら会社から呼び出されてひどい目に会ったことがある。戦争や核に反対なんだけど、人間が仲間を密告したり、他人の行動を盗み見たりするような社会が来ることが我慢ならないのだ。人間がおおらかさを失い、隣人の目を気にしなければならないような社会への警鐘を鳴らし続けているんだ。共謀罪はモロに密告社会を導くんだものネ。

テント小舟論から共謀罪にテーマがあつという間に移ってしまってだんだん夢から覚めてきた。エッ、まだ紙が入っているじゃん。何だろう。「漫画しんぶん」だ。そうか、西山さんと来れば「漫画しんぶん」だものネ。オ、8月20日発行の100号だって。記念号じゃん。これは紹介しとかなきゃ。

ソッカ、西山さんは8月9日に長崎の式典に出席していたのか。不肖当方も長崎の国際会議出席のためにこの日は長崎にいて、土砂降りの中を歩いたけれど、西山さん達はそれにはあわなかったようで、よかったですね。西山さんの漫画に「大型船とイージス艦」が描かれているけど、そういえば港では目の前に大型客船が停泊していた。すっかり忘れていたネ、この漫画を見て思い出した。

大型客船で別のことも思い出した！日本はインバウンドが1000万人だとか2000万人だとか言って景気を支えているのが話題になっているけれど、旅行業は平和産業で、平和でなければインバウンドもアウトバウンドも成り立たない。旅行に関連した職業に従事する人は平和を破壊する可能性のある政策には断固として反対の意思を示さなければならない。平和祈念像も大型客船も平和でなければ見られないのです、ということ思い出した。

何時？ もうこんな時間か。

(以下次号)

(文責 栗山次郎) 2017年9月4日公開

[日本漫画家会議会報「DON \(どん\)」NO.22 \(2017年8月\)](#)

[西山進「漫画しんぶん」No.100](#)

2017年8月27日付毎日新聞福岡

<https://mainichi.jp/articles/20170827/ddl/k40/040/242000c>